

巻頭言8月号J.txt

パトモスチームが7月11日～20日の日程でギリシャ領のパトモス島に遣わされました。チーム派遣中にトランプ米大統領とマクロン仏大統領の会談やマクロン仏大統領がイスラエルのネタニヤフ首相と中東和平についての会談が行われるなどの出来事も起こりました。今回、後の雨、終末のリバイバルの働きの使命を全うするうえで重要な意味合いを持つ派遣となりました。

パトモス島はヨハネの黙示録が書き記された特別な意味合いを持った場所です。日中は使徒ヨハネが黙示録を啓示されたとされる洞窟に隣接する場所での礼拝や祈り込みを中心に、希望者らが午後と夜は路上ライブを行い、夜は聖会が行われました。

サタンは創世記の始めから黙示録の終わりまで登場しますが、黙示録はサタンが裁かれた後の新天新地、神の国「天のエルサレム」に至る道まで言及しています。また、私たちクリスチャン一人ひとりの国籍は天にあり、この地上では寄留者と言われていいます。主講師パウロ秋元牧師はメッセージで、これから迎える患難時代はサタンが激しく働く時代ですが、クリスチャンはすでに十字架によりサタンに対して勝利を与えられていること、私たちはすでに「天」と「永遠」に基盤を置いており、永遠に向かう歩みの中で患難時代や「死」は通過点に過ぎず、さらに次の段階、永遠に向けて私たちの歩みは進展、発展していくことなどが語られました。この地上では寄留者であり、天に国籍がある者として天を見上げ、後の雨、終末リバイバルの使命を全うしていく必要があります。

黙示録時代は他人事ではなくなってきました。患難時代の始めに中東和平を締結する欧州の人物こそが反キリストであると聖書は予告しています。後の雨、終末リバイバルのクライマックスの働きを担うために、徹底して神のことに信頼し、聞き従うとき、働きの使命を主が全うさせてくださることを覚え歩みましょう。